Adobe Photoshop ver.28 → ver.13 機能一覧

2026 年 11 月リリース（ver.28）

- リライトでクリエイティブなライティング効果を追加
- オブジェクトおよび関連要素を削除
- クイック比較で編集内容を比較
- 生成アップスケールで画質を向上
- 生成リスタイルで編集を微調整
- AI アシストエディターで画像を編集
- 「プロンプトで編集」を使用して画像を編集
- 生成再構成で画像を再構成
- プレースホルダーテキストをカスタマイズ

2025 年 10 月以降に追加された機能（ver27.xx）

- オブジェクトを回転
- 新調整パネル；ライト
- エッジを強調
- ダイナミックフィット
- レイヤーパネルを素早く整理
- 写真から不要な反射を削除
- 更新された削除ツールでオブジェクトや人物を簡単に削除

Windows 10（最小：v21H2 以降 , 推奨：v22H2）、Windows 11（推奨：V24H2、V25H2、V26H1）	
Processor	マルチコアの Intel®、AMD または WinARM プロセッサー
RAM	8 GB 以上
HD	10 GB 以上の空き（インストール中は追加の容量が必要）
AVX	AVX2 をサポートする Intel または AMD CPU

※ ARM プロセッサー：Windows 10（バージョン 20H2）以降を実行している Windows 10 ARM デバイス
※グラフィックカード：動作確認済みのハードウェアアクセラレーション対応の認定 OpenGL® graphic card
※ GPU がサポートされていない場合、GPU を必要とする一部機能が動作しません。
Photoshop GPU の FAQ：https://helpx.adobe.com/jp/photoshop/kb/photoshop-cc-gpu-card-faq.html

Mac	
macOS version 14、macOS version 15、macOS version 26、macOS version 27	
Processor	マルチコアの Intel® または Apple シリコンプロセッサー
RAM	8 GB 以上
HD	10 GB 以上の空き（インストール中は追加の容量が必要）
AVX	AVX2 対応 Intel CPU

※モニター解像度：1024 x 768 @1x または 1080p @2x、認定ハードウェアアクセラレーション OpenGL® グラフィックカード、16 bit カラー、1512 MB VRAM

全ての新機能および機能強化についてはこちら参考ください

技術要件の詳細はこちらも参考ください

2025 年 10 月リリース（ver.27）

- 調和
- 生成アップスケール（Topaz）
- Nano Banana と Flux を生成塗りつぶしに搭載
- 新しい色調補正パネル（カラーと自然な彩度）
- デバイス（クラウドではなく）を使っての被写体を選択 / 背景を削除の向上
- Photoshop アセットを Firefly に共有して動画を生成
- 共有プロジェクトを作成して、アセットを整理し共同作業

2024 年 10 月リリース（ver.26）

- 生成塗りつぶし
- 生成拡張
- 削除ツールの新しい操作
- マスクワークフローでコンテキストタスクバーに新しい機能を追加
- 色調補正パネルに複数のプリセットが追加
- コンテキストタスクバーで関連する次の手順を見つける
- グラデーションの改善

2023 年 9 月リリース（ver.25）

- 生成塗りつぶし
- 生成拡張
- 削除ツールの新しい操作
- マスクワークフローでコンテキストタスクバーに新しい機能を追加
- 色調補正パネルに複数のプリセットが追加
- コンテキストタスクバーで関連する次の手順を見つける
- グラデーションの改善

2022 年 10 月リリース（ver.24）

- 選択機能の向上
- ワンクリックで削除して塗りつぶし
- 写真復元ニューラルフィルター（Beta）
- コンテンツ認証情報（Beta）
- Illustrator からのテキストレイヤーのコピー＆ペースト
- 円柱ワープの変形
- 油彩フィルターのパフォーマンスの向上

2021 年 10 月リリース（ver.23）

- 新たに改良されたニューラルフィルター
- Illustrator との相互運用性の向上
- カーソル合わせ時の自動選択
- コメントの共有
- 油彩フィルターの強化
- 改良されたグラデーションツール

2020 年 10 月リリース（ver.22）

- ニューラルフィルター
- 空を置き換え
- パターンプレビュー
- シェイプツールの強化
- スマートオブジェクトのリセット
- アプリで直接詳細を学習する

2019 年 11 月リリース（ver.21）

- 人物写真の選択の向上と高速化
- 回転可能なパターン
- 新しいオブジェクト選択ツール
- スマートオブジェクトをレイヤーに変換
- 機能強化されたワープの変形
- Adobe Fonts の自動アクティベーション
- コンテンツに応じた塗りつぶしの機能強化

2018 年 10 月リリース（ver.20）

- コンテンツに応じた塗りつぶしが一新
- カラーホイール
- マスキングが簡単なフレームツール
- マッチフォント
- シンメトリーモード
- 複数の操作を元に戻す
- 描画モードのライブプレビュー

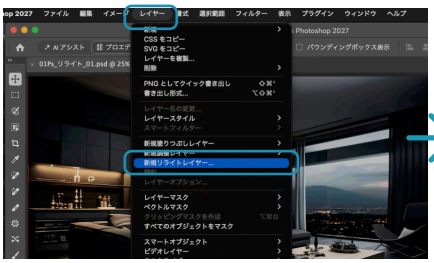
参考）mac OS 27（**Golden Gate**）/ mac OS 26（**Tahoe**）/ mac OS 15（**Sequoia**）/ mac OS 14（**Sonoma**）/ mac OS 13（**Ventura**）/ mac OS 12（**Monterey**）
Windows 11「**25H2**」(2025/9/30)、Windows 11「**24H2**」(2024/10/01)、Windows 11「**23H2**」(2023/10/31)、Windows 11「**22H2**」(2022/9/20)、Windows 11「**21H2**」(2021/10/05)、Windows 11「**22H2**」(2022/9/20)
Windows 10「**21H1**」(2021/5/18)、Windows 10「**21H2**」(2021/11/16)、Windows 10「**22H2**」(2022/10/18)、Windows 10「**22H2**」(2022/10/18)

この情報は、2026 年 11 月時点のものです。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

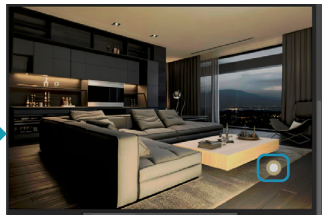
Adobe Photoshop 2026 年 11 月リリース (ver.28)

リライト

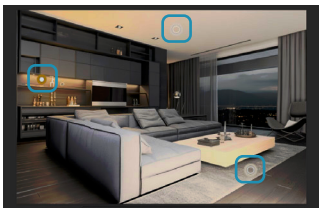
画像に印象的なライティングを追加します。最大 3 つの光源を追加し、カンバス上で直接その位置、カラー、強度、拡散を調整できます。ライティングの変更はアクティブなレイヤーにのみ適用され、結果は個別のリライトレイヤーが作成され、元の画像レイヤーはそのまま保持されます。



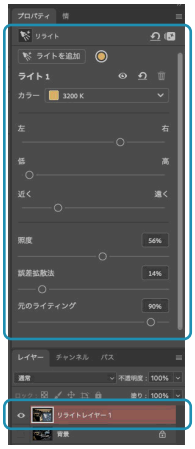
調整を行いたい対象のレイヤーを選択されている状態で、レイヤーメニューから【新規リライトレイヤー...】を選択します。コンテキストタスクバーから継続して操作もできますが、ウィンドウメニューからプロパティパネルを表示させておくことでプロパティパネル上で設定も行えます。



画像上にマークを、ライトの調整したい位置に自由に移動させ、カラー（色温度）や照度などパラメーターを調整します。

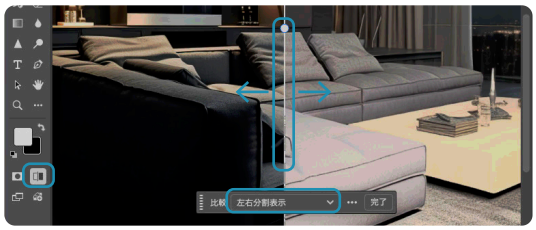


ライトは最大3箇所追加できます。



リライトレイヤーとして作成されます。

▼クイック比較



ツールパネルの【クイック比較】を選択して、元のドキュメントの状態と現在の編集内容をスライダーで位置を調整しながら比較できます。

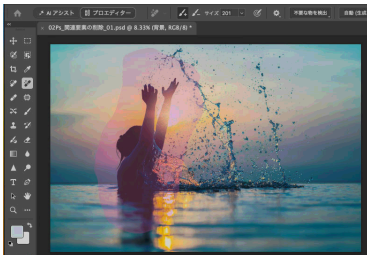
削除ツール「関連要素の削除」

不要なオブジェクトを、関連するシャドウ、足跡、煙、蒸気、水面の波紋などとともに削除し、自然な仕上がりの画像にします。

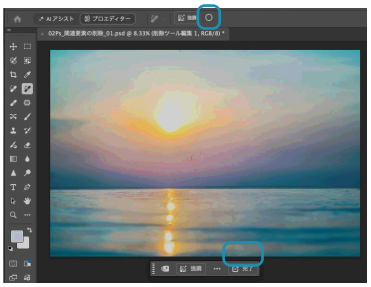




ツールから【削除ツール】を選択します。
今回は画像の人物と人物と関連している水飛沫を削除し、水面と夕日のみにしたいので、オプションバーに表示される【関連要素を削除】から関連要素を削除を選択します。



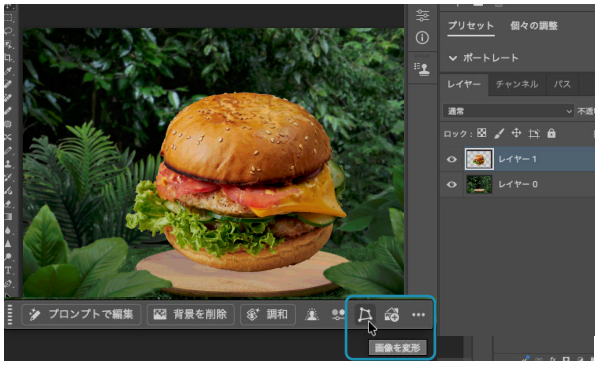
オプションバーに表示されるブラシサイズなどを調整して、削除したい人物を囲うように選択。



削除された結果を確認、オプションバーに表示される〇かコンテキストタスクバーで完了をクリックします。

オブジェクトを回転（Ver27.6 で追加）

２D のピクセルレイヤーを回転可能な 3D オブジェクトに変換して、回転や角度など様々な向きを調整できます。



回転させたいオブジェクトを含むピクセルレイヤーまたはスマートオブジェクトレイヤーを選択し、コンテキストタスクバーから【画像を変形】をクリックします。



コンテキストタスクバーから【オブジェクトを回転】をクリックします。



カンバス上のコントロールを使用して回転を調整するか、コンテキストタスクバーから【回転】【傾き】で画像を調整できます。
※オブジェクトの回転中は低解像度プレビューが表示されます。

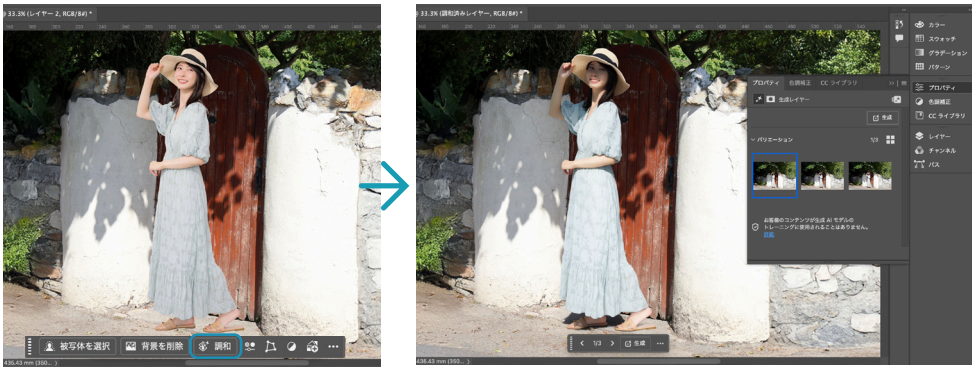
- 左コントロール：水平方向に回転
- 右コントロール：遠近や奥行き調整
- 右コントロール：垂直方向に回転

この情報は、2026 年 11 月時点のものです。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

Adobe Photoshop 2025 年 10 月リリース (ver.27)

調和

「調和」を使用して、色、照明、影を自動的に調整し、見た目が自然でリアルな合成画像を作成します。



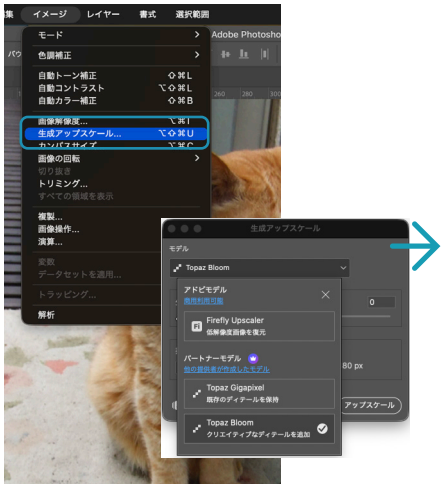
背景として使用する画像の上に新しいレイヤーで被写体を配置します。
コンテキストタスクバーの【調和】をクリックするとバリエーションを3種作成します。



照明、カラー、影などを自動的に調整し調和済みレイヤーとして作成されます。

生成アップスケール（Topaz）

Topaz Labs の技術を利用した生成アップスケールで画像の解像度を上げ、ディテールを向上させます。



イメージメニューから【生成アップスケール】
Topaz GigapixeやTopaz Bloomが選択して生成します。



❶元画像

❷Topaz Gigapixe（既存のディテールを保持）で生成。目元や毛などのディテールが向上してます。

❸Topaz Bloom（新しい創造的なディテールを追加）で生成。元画像を生かしつつ新たなディテールを追加して生成されます。

Nano Banana と Flux を生成塗りつぶしに搭載

生成塗りつぶしの新しいパートナー AI モデルで、より多くのものを作成できます



画像を開いて【生成塗りつぶし】をクリックします。



プロンプトを入力してAIモデルをから生成させたいモデルを選択して生成します。





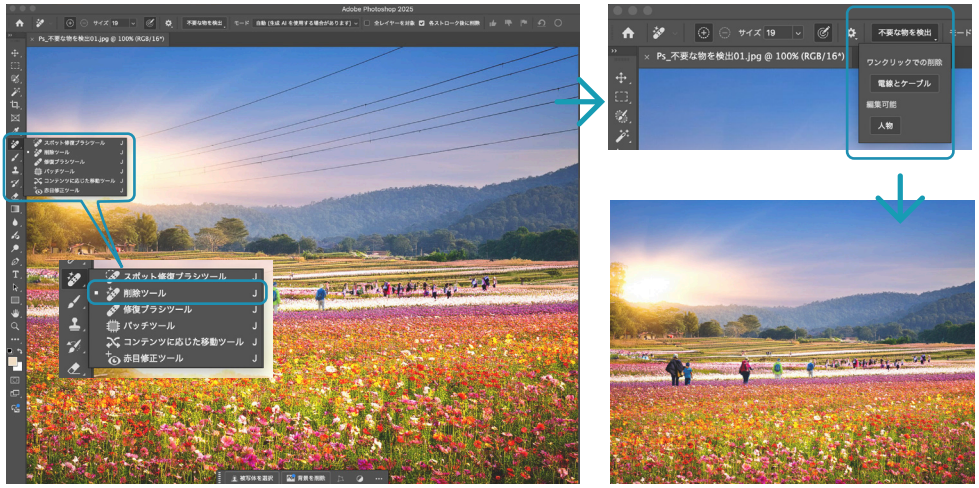
AIモデルの種類によって生成結果は変わってきます。必要に応じて選択を切り替えながら使用します。

この情報は、2026 年 11 月時点のものです。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

Adobe Photoshop 2024 年 10 月リリース (ver.26)

削除ツールの「不要な物を検出」

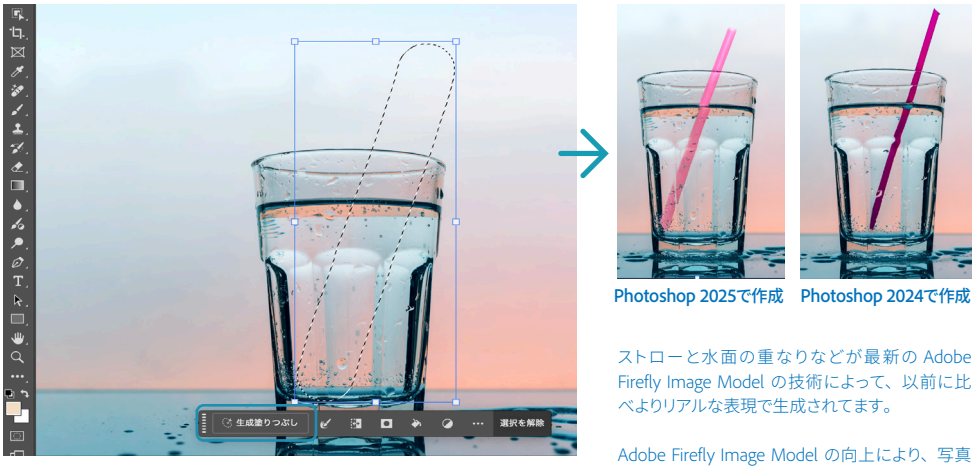
Adobe Firefly Image Model の技術を利用した削除ツールの「不要な物を検出」を使用して、画像内の被写体以外の人物、またはケーブルや電線などの不要物をワンクリックで画像から削除します。



ツールから【削除ツール】を選択。オプションバーに表示される【不要な物を検出】から削除したい対象（今回は電線とケーブル）をクリック。電線とケーブル以外にも不要な人物も自動で検出して削除することができます。

拡張塗りつぶしと生成拡張による結果の改善

最新の Adobe Firefly Image Model の技術を活用した高度な生成塗りつぶし、生成拡張、背景を生成のテキストプロンプトを使用して、よりフォトリアリスティックな画像を作成しましょう。



Photoshop 2025で作成　Photoshop 2024で作成

画像を開き追加したいエリアを選択、【コンテキストタスクバー】の【生成塗りつぶし】をクリック。【テキスト入力プロンプトボックス】が表示されます。生成するオブジェクトについて入力（今回はピンクのストロー）して生成します。

ストローと水面の重なりなどが最新の Adobe Firefly Image Model の技術によって、以前に比べよりリアルな表現で生成されてます。

Adobe Firefly Image Model の向上により、写真の画質が大幅に向上しているほか、プロンプトの理解が向上して複雑な記述を理解できるようになり、多彩な生成で様々な結果を模索できます。

背景を生成

背景を生成を使用すれば、わずか数ステップで、背景を被写体の照明、シャドウ、遠近法に合わせて生成されたコンテンツと置き換えることができます。



【コンテキストタスクバー】の【背景を削除】をクリック。

背景が自動で認識され削除されます。引き続き【コンテキストタスクバー】の【背景を生成】をクリック。【テキスト入力プロンプトボックス】にテキストを入力して背景を生成します。

【背景を生成】を使用すると、被写体の照明、シャドウ、遠近法に合わせて生成されたコンテンツで、画像の背景を置き換えられます。

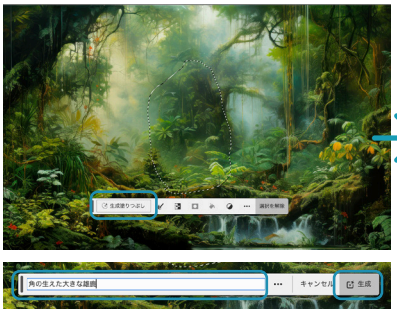
Adobe Photoshop 2023 年 10 月リリース (ver.25)

生成塗りつぶし

生成塗りつぶしと生成拡張では、画像の遠近法、照明、スタイルが自動的に一致して、驚くような結果が生み出されます。

新しく生成されたコンテンツは生成レイヤーに作成されます。

レイヤーごとに画像の調整が出来るためより精度高い画像を作ることが出来ます。

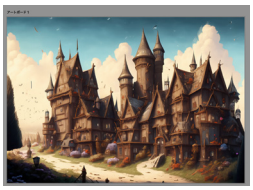


画像を開き追加したいエリアを選択、【コンテキストタスクバー】の【生成塗りつぶし】をクリック。
【テキスト入力プロンプトボックス】が表示されます。生成するオブジェクトについて入力するか、空白のままにしておくこともできます。空白のままにすると、その周囲に基づいて Photoshop が選択範囲を塗りつぶします。



【プロパティ】パネルにバリエーションとして3種類の画像が生成されます。





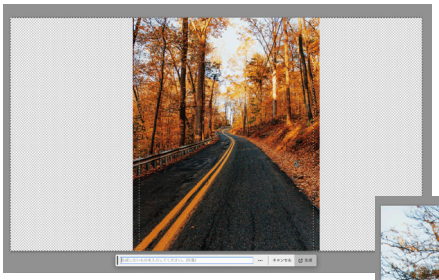
ドキュメント全体を選択して生成することもできます。

生成拡張

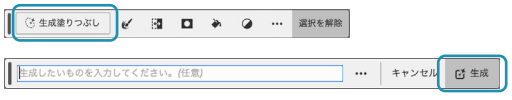
生成塗りつぶしと生成拡張では、画像の遠近法、照明、スタイルが自動的に一致して、驚くような結果が生み出されます。

新しく生成されたコンテンツは生成レイヤーに作成されます。

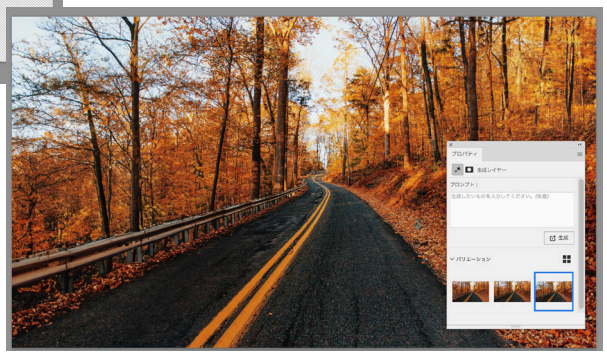
レイヤーごとに画像の調整が出来るためより精度高い画像を作ることが出来ます。



画像の左右を追加したいので選択範囲で左右の空欄を選択します。
選択する際には元の画像に少し被るように選択します。
【コンテキストタスクバー】の【生成塗りつぶし】をクリック。【コンテキストタスクバー】の内容が切り替わりテキスト入力を行えますが、そのまま入力せずに【生成】をクリックします。



【プロパティ】パネルにバリエーションとして3種類の画像が生成されます。

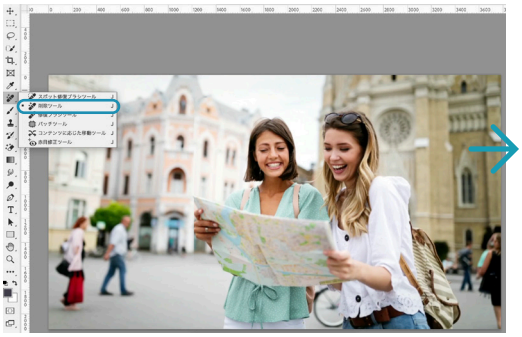


削除ツールの新しい操作

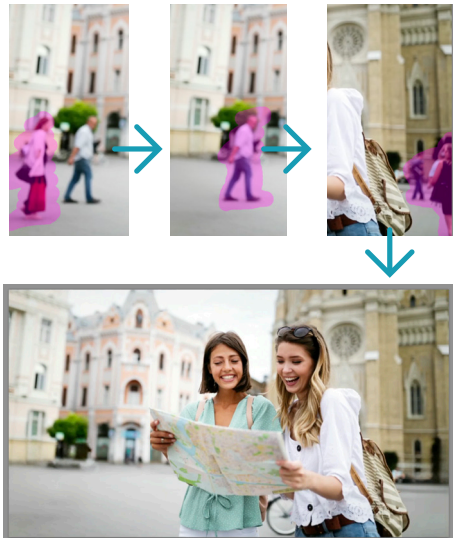
削除ツールを使用し、ブラシで完全に覆うのではなく、消したい領域の周りにループを描画します。

この新しい操作では、ループを閉じる必要さえありません。Photoshop が距離を判断し、ループを自動的につないで不要部分を削除します。ブラシエラーが減少し、時間を節約できます。

領域を囲む際に間違った選択を行った場合は、オプションバーのブラシストロークモードを加算から減算に変更して修正します。



ツールにある【削除ツール】を選択しブラシのサイズを調整したら、削除したい箇所をブラシでなぞります。
削除したい箇所の背景などを維持したまま、対象となる箇所を自然な形で削除してくれます。



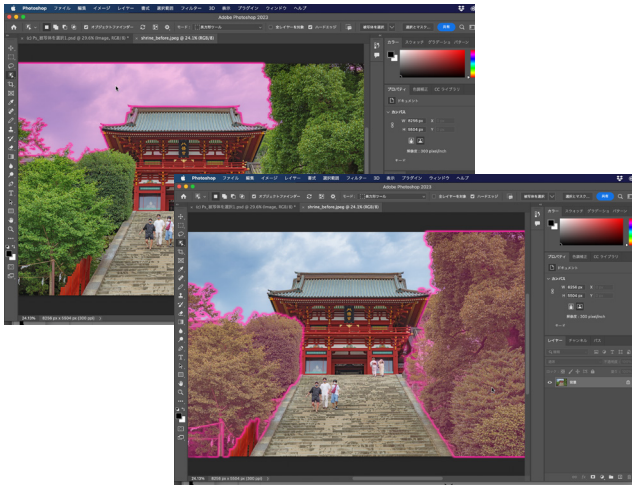
Adobe Photoshop 2022 年 10 月リリース (ver.24)

選択機能の向上

オブジェクト選択ツールでは、空、水、地表、植物、建築物などの検出と選択がさらに向上しました。オブジェクトにカーソルを合わせてクリックすれば選択できます。



【オブジェクト選択ツール】を選択します。

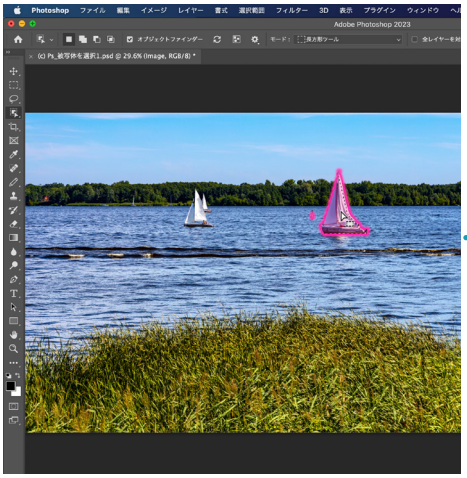


マウスが なのを確認して被写体を選択します。人物・空・建物・植物など、複雑なオブジェクトをそれぞれ認識できるようになりました。

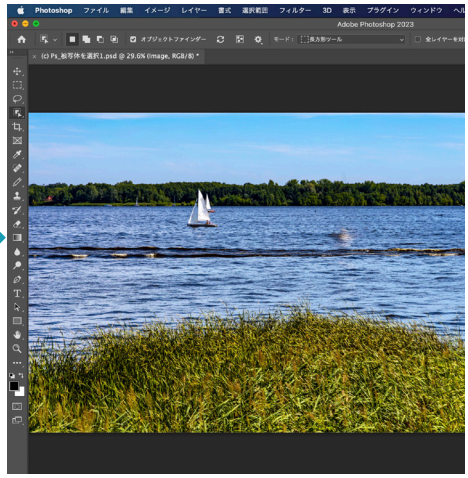
ワンクリックで削除して塗りつぶし

オブジェクトを移動、またはシーンからオブジェクトを完全に削除し、その領域をコンテンツに応じた塗りつぶしを使用して塗りつぶす作業をワンクリックで行えます。

なげなわツールなどの他の Photoshop ツールを使用しているときにマウスを右クリックしてコンテキストメニューにアクセスし、「選択範囲を削除して塗りつぶし」を選択しても、選択範囲を削除できます。



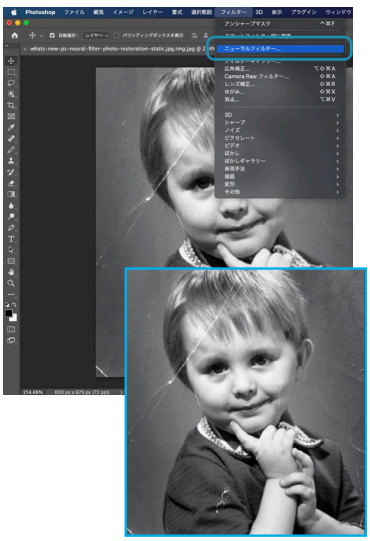
消したいものをオブジェクト選択ツールで選択します。

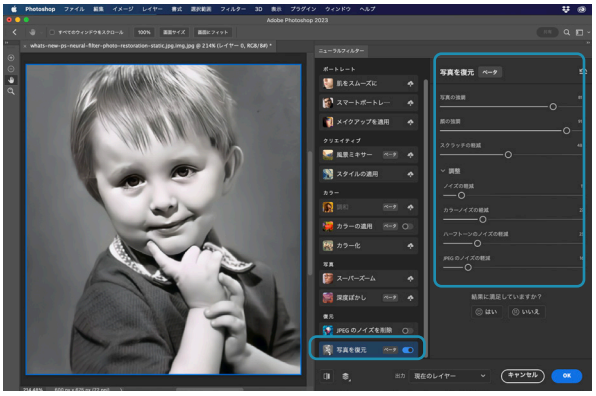


キーボードショートカットで、Shift + Delete で簡単に選択されたオブジェクトを削除することができます。

写真復元ニューラルフィルター（Beta）

AI を利用した新しい写真の復元ニューラルフィルターを使って、古い写真を復元をディテールを補正し復元してくれます。





【フィルター】メニュー →【ニューラルフィルター】を選択します。
ニューラルフィルターのウィンドウが表示されたら、メニュー下にある【写真を復元】をチェックします。初めてこのフィルターを使う方は、写真を復元のクラウドから設定をダウンロードして使用します。
【写真を復元】フィルターのスライダーを調整して、折り目など傷ついた写真（左）をきれいにします。

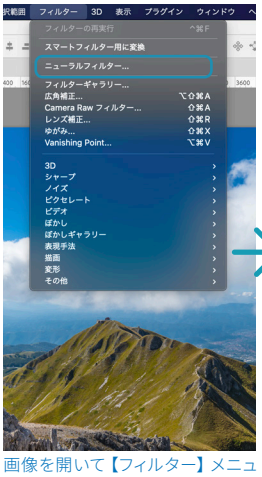
Adobe Photoshop 2021 年 10 月リリース (ver.23)

新たに改良されたニューラルフィルター

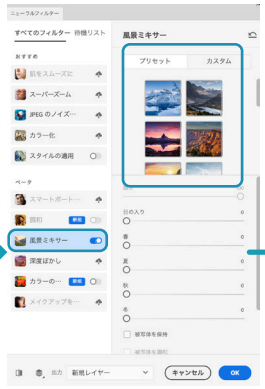
このリリースでは、次の新しいベータ版ニューラルフィルターを使用できます。

風景ミキサー：異なる風景画像をミックスして新しい風景画像を作成します。
カラーの適用：ある画像から別の画像にカラーパレットを適用します。
調和：レイヤーのカラーおよび輝度を別のレイヤーに調和させて、自然な合成画像を作成します。

また、**カラー化**および**スーパーズーム**ベータ型ニューラルフィルターが改良され、おすすめニューラルフィルターリストに昇格しました。



画像を開いて【フィルター】メニューから【ニューラルフィルター】を選択します。



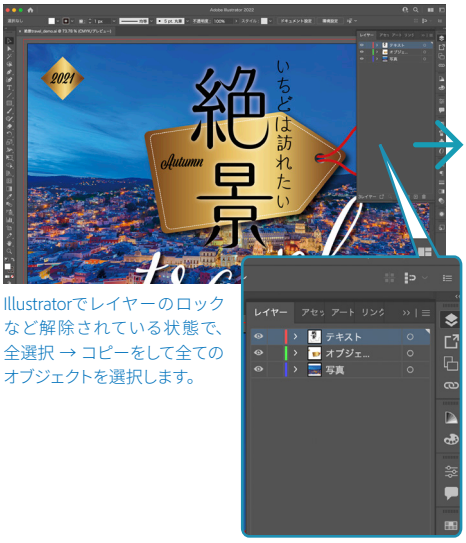
【風景ミキサー】を選択し、プリセットから風景を選択することで、選択したプリセットのような風景が画像に適用されます。
右上：雪山風のプリセットを適用
右下：緑地風のプリセットを適用



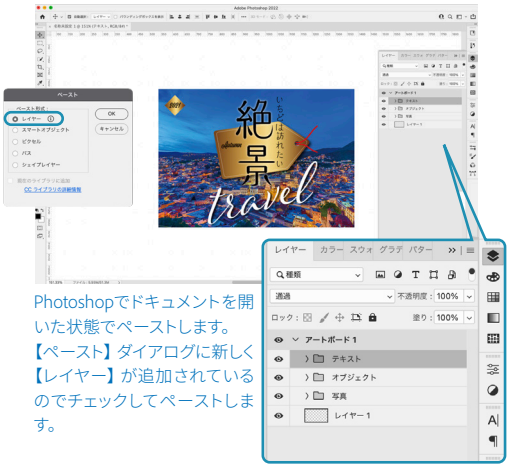


Illustrator との相互運用性の向上

Illustrator と Photoshop 間の相互運用性が向上し、インタラクティブ機能を活用して、Photoshop でレイヤー／ベクトルシェイプ、パス、ベクトルマスクを保持したまま Ai ファイルを簡単に取り込んで、編集や操作を続行することができます。



Illustratorでレイヤーのロックなど解除されている状態で、全選択 → コピーをして全てのオブジェクトを選択します。

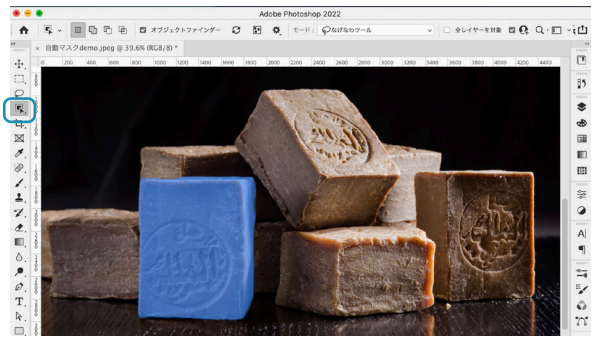


Photoshopでドキュメントを開いた状態でペーストします。【ペースト】ダイアログに新しく【レイヤー】が追加されているのでチェックしてペーストします。

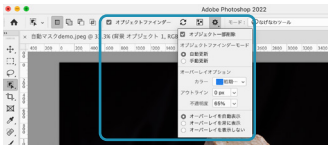
Illustratorで作成していたレイヤーどおりにPhoroshopへペーストできています。

カーソル合わせ時の自動選択

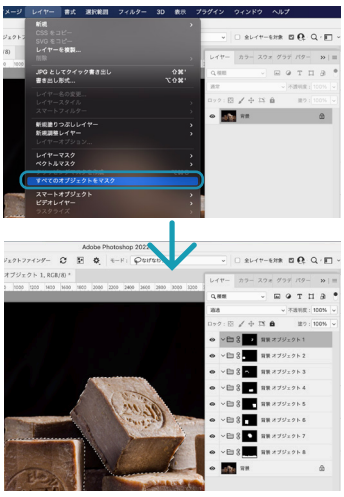
オブジェクト選択ツールで、必要なオブジェクトをクリックするだけで、プレビュー機能とマスキング機能の品質が向上し、合成とレタッチのワークフローがより速く、簡単で、クリエイティブな作業が直感的になります。



オブジェクト選択ツールを使ってオブジェクトを選択します。画像の上にマウスを重ねると対象のオブジェクトがどう選択できるか確認しながら選択を行えます。



オプションバーの設定から、選択範囲をさらに微調整することで、選択範囲に一部を追加、削除または共通化させることができます。



選択したオブジェクトをレイヤー事にマスクで書き出すことができるようになりました。

Adobe Photoshop 2020 年 10 月リリース (ver.22)

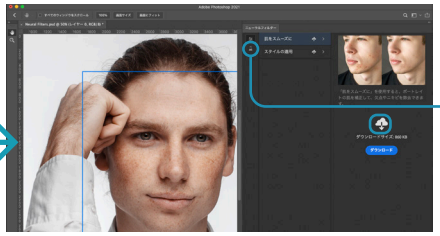
ニューラルフィルター

Adobe Sensei の技術を活用して新たに考案されたフィルターが導入され、さまざまなクリエイティブなアイデアを試すことができます。

シーンに色を付けたり、画像の一部をズームインしたり、人の表情、年齢、視線、ポーズを数秒で変更したりできます。



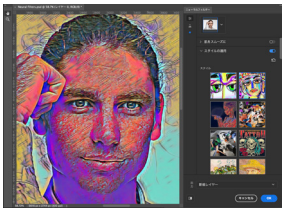
フィルターメニューから【ニューラルフィルター】を選択。



クラウドアイコン（ ）をクリックして、各フィルターをダウンロードして使用できます。 はベータ版フィルターで継続して機能改善されていきます。



は利用可能になる可能性のあるフィルターです。機能ごとに投票できるので使ってみたい！　と思われる機能があれば【興味があります】ボタンをクリックして投票してください。



【スタイルの適用】でスタイルを選択



ベータ機能の【スマートポートレイト】からオプション（年齢、髪の量、顔の向き）を選択

空を置き換え

写真の中の空をすばやく選択して置換し、新しい空に合わせて景色のカラーを自動的に調整します。撮影条件が完璧でなくても、希望する雰囲気を写真に反映できます。

より正確に作業するには、ズームインして空の一部を選択するか、空を移動して適切な雲やカラーを見つけます。



編集メニューから
【空を置き換え...】を選択



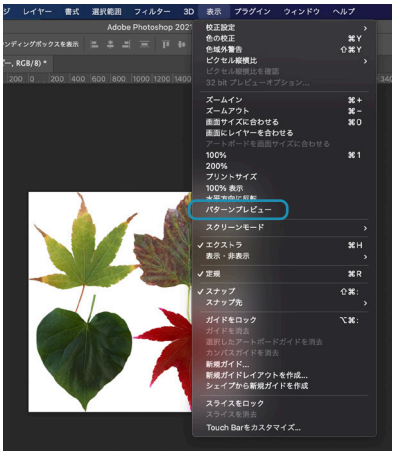
【空を置き換え】ダイアログで調整を行います。空の種類を変更するには、【空】の属性ボックス（右図）から空を選択するか、属性ボック右上にあるメニューから独自の空を追加できます。



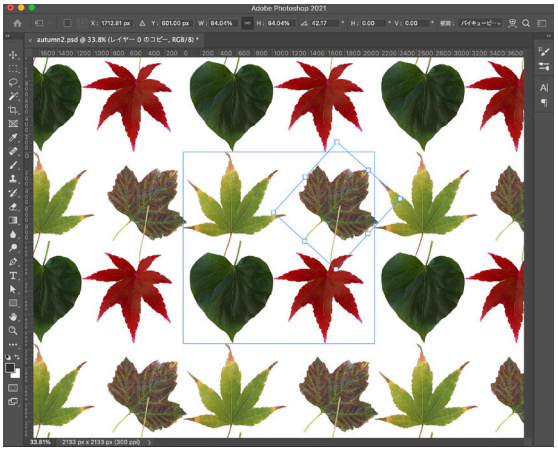
左：元の写真
右：空を変更

パターンプレビュー

パターン作成の際に、パターンがどのような効果になるかをリアルタイムに確認しながら作成できます。



表示メニューから【パターンプレビュー】を選択



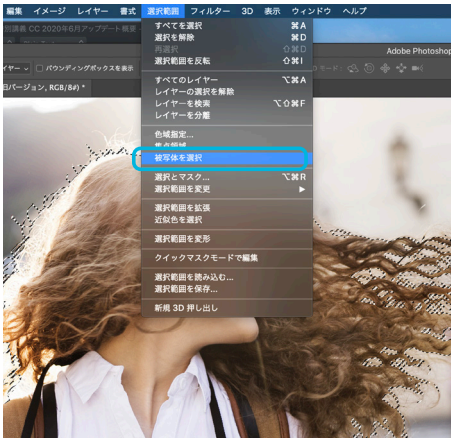
パターンの効果を確認しながらmパターンに含まれる素材を個別に選択して拡大、回転、移動など調整できます。

Adobe Photoshop 2019 年 11 月リリース（ver.21） ※ 2020 年 6 月リリース含む

人物写真の選択の向上（20 年 6 月）

ワンクリックで、画像内の人間の被写体を正確に選択できるようになりました。

「被写体を選択」では、人物写真内の人物が自動的に検出され、髪の毛のようなきめ細かいディテールや高画質のエッジを含む画像で、より正確な選択ができます。



選択範囲メニューから【被写体を選択】します。
今までは髪の毛のようなきめ細かいディテールを自動で選択するには難しかったが、2020年6月アップデートにより、より正確な選択ができるようになりました。



以前のバージョンでは髪の毛の毛先の細かいディテールまでは抜いて選択できてません。



2020年6月のアップデートにより、髪の毛の毛先の細かいディテールまでは抜いて選択できます。

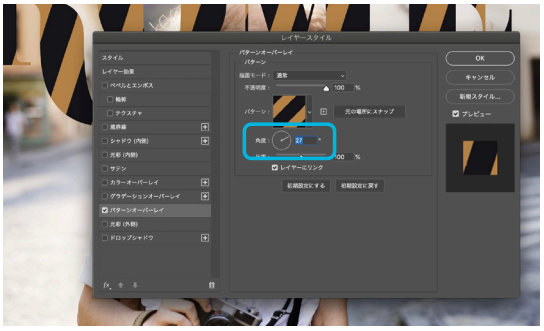
回転可能なパターン（20 年 6 月）

パターンを任意の角度で回転できる機能が追加されました。

パターンオーバーレイ、パターンストローク、パターン塗りつぶしの各レイヤーでパターンの方向を簡単に変更し、周囲の方向に合わせて揃えられるようになりました。

パターンの回転は非破壊的で、簡単にリセットまたは変更できます。





【レイヤー】→【レイヤースタイル】→【パターンオーバーレイ...】で新たに”角度”が追加され、パターンの角度を自由に調整できるようになりました。

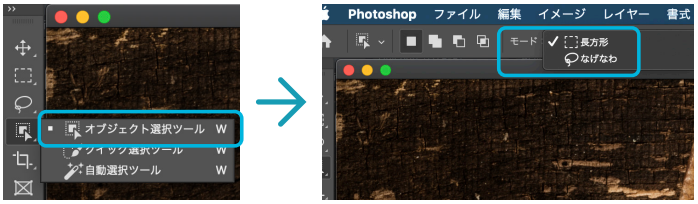


調整レイヤーから【パターン】を設定して、その後クリッピングマスク等を行うことで、対象のレイヤーにパターンを適用できます。
調整レイヤー側でもパターンの角度調整を設定できます。

新しいオブジェクト選択ツール

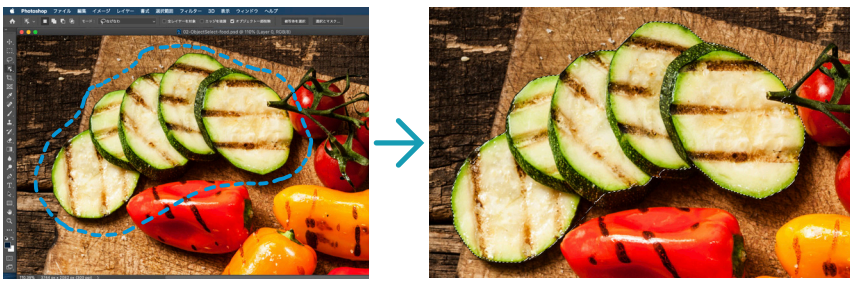
Adobe Sensei を利用する新しいオブジェクト選択ツールは、人、車、家具、ペット、衣服など、画像内の 1 つのオブジェクト、複数のオブジェクト、またはオブジェクトの一部を選択するプロセスを簡素化します。

選択したいオブジェクトを長方形またはなげなわで囲うように選択するだけで、囲った範囲内のオブジェクトが自動的に選択され、非常に複雑な選択もすばやくおこなうことができます。



ツールにある【オブジェクト選択ツール】を選択。選択したいオブジェクトを選択範囲で囲うようにして選択します。

選択する方法として【モード】から【長方形】or【なげなわ】を切替できます。



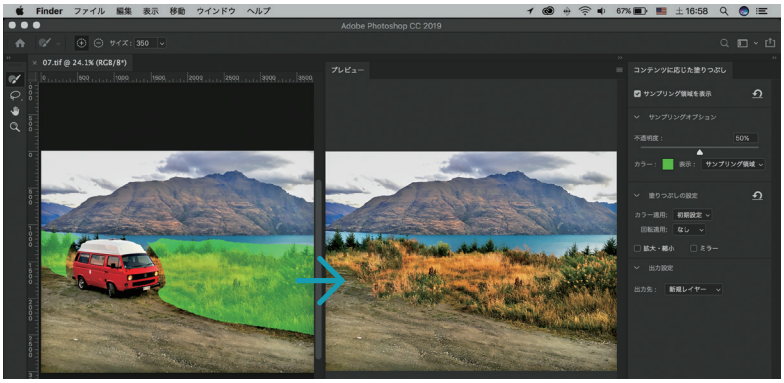
選択したいオブジェクト（今回はズッキーニ）を、ざっくり【なげなわ】で囲うように選択（左図）。
Adobe Senseiが自動的にオブジェクトを判断して選択を行ってくれます（右図）。

Adobe Photoshop 2018 年 10 月リリース (ver.20)

コンテンツに応じた塗りつぶしが一新

新たに追加されたコンテンツに応じた塗り用のワークスペースを使用することで、サンプリング領域を自由にカスタマイズしながら作業をおこなうことが出来るようになりました。

サンプリング時には、回転、サイズ変更、ミラー化が Adobe Sensei テクノロジーで実現しています。



編集メニューにある【コンテンツに応じた塗りつぶし】を選択すると、新しいワークスペースが表示され、プレビューを確認しながら詳細な設定をおこなえるようになりました。

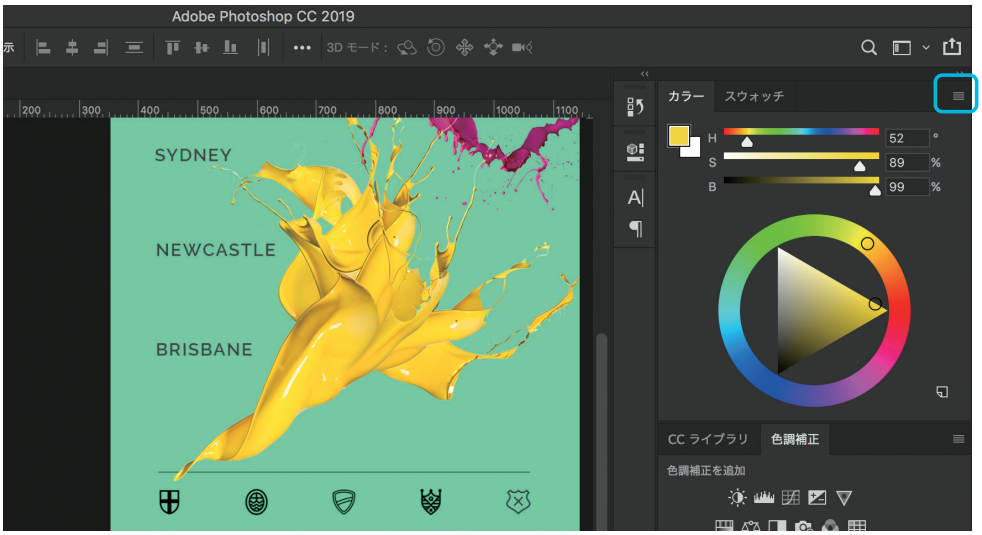
サンプリングしたい領域をブラシで選択（左の絵の緑の箇所）することで、選択した領域にあるコンテンツのみを使用してサンプリングを行い、パスを消すことができています。

カラーホイール

カラーの選択方法に、新たにカラーホイールが追加されました。

配色を決める際など、補色や類似色を簡単に選択することができます。

カラーピッカーとも連動するので、適用したカラーの変更にも活用できます。

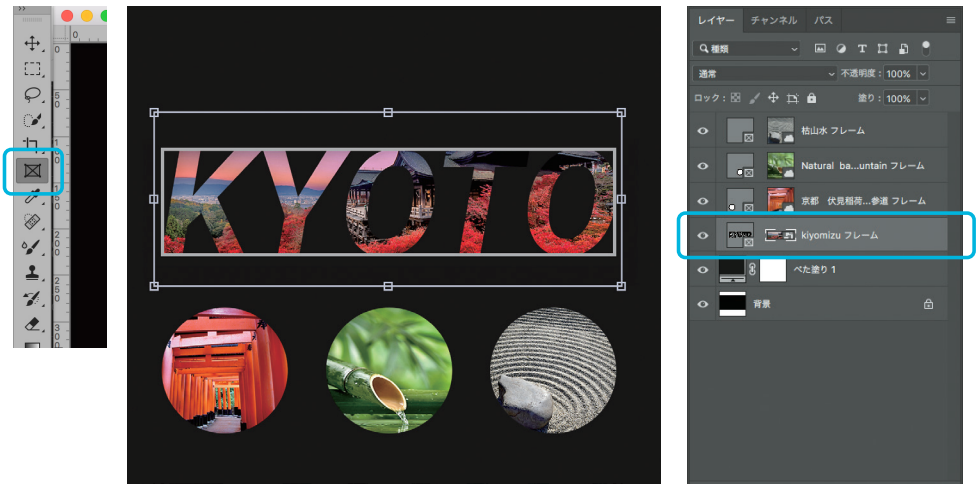


カラーパネルのサブメニューより【カラーホイール】を選択することで表示を切り替えできます。

マスキングが簡単なフレームツール

シェイプやテキストをフレームに変え、プレーホルダーとして使用したり画像を塗りに設定できます。

画像をフレームにドロップすれば、簡単にマスクができます。サイズは自動で調整されます。



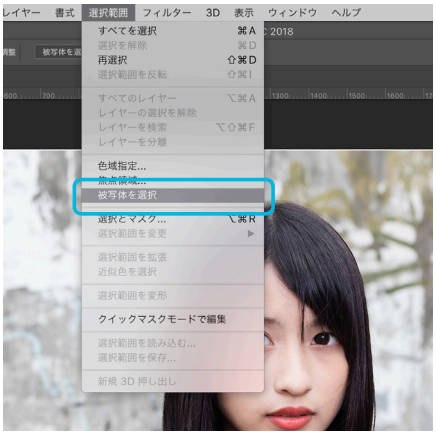
ツールの【フレームツール】を使用してレイアウトしたいサイズのフレームを作成。そのフレームに対して画像をドラッグ&ドロップしてレフレームに入るように配置ができます。

Adobe Photoshop 2017 年 11 月リリース (ver.19)

被写体を選択

新しい「被写体を選択」機能を使えば、画像内の目立つオブジェクトをワンクリックで選択できます。

そして、選択ツールまたは「選択とマスク」ワークスペース内で微調整できます。



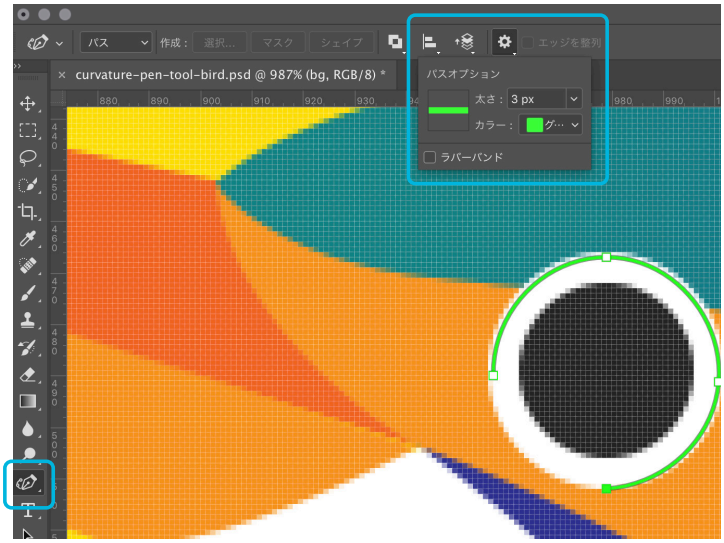


選択範囲のメニューから【被写体を選択】を選択。
画像中の主要な被写体を自動的に選択されます。

曲線ペンツール、パス機能向上

Illustrator CC の曲線ツールと同様に、アートボードを３点クリックすることで、アンカーポイント間に自動で曲線を生成できる曲線ツールが追加。

また、パスラインの太さ、カラーをカスタマイズも出来るようになりました。

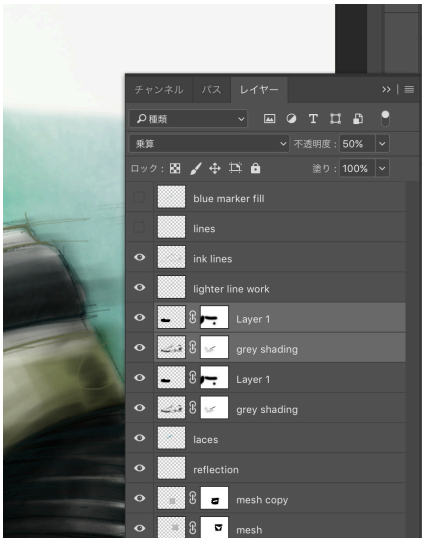


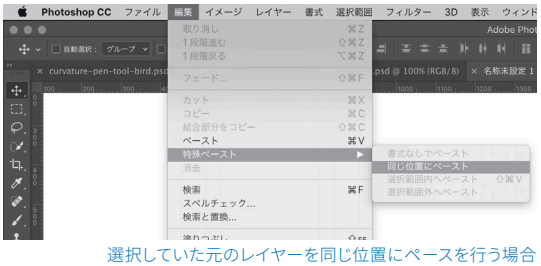
パスラインの表示の設定を、0.5pxから3pxで調整でき、カラーも１０色からセレクトできます。

レイヤーのコピー＆ペースト

Photoshop でレイヤーをコピー＆ペーストできるようになりました。ドキュメント内やドキュメント間で「コピー」、「ペースト」、「同じ位置にペースト」の各コマンドを使用します。

解像度の異なるドキュメント間でレイヤーをペーストした場合、ペーストされたレイヤーでは元のピクセルサイズが保持されます。カラーマネジメント設定や関連カラープロファイルによっては、読み込まれたデータのカラー情報の取り扱いに関する指定を求められることがあります。





選択していた元のレイヤーを同じ位置にペースを行う場合は、【編集】→【特殊ペースト】→【同じ位置にペースト】となります。

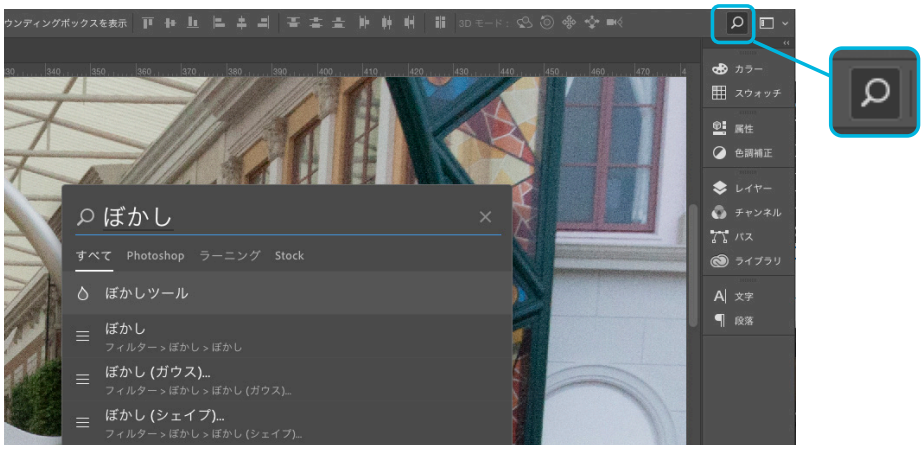
複数のレイヤーを選択して、ショートカットでcommand+C、Command+V でレイヤーを複製。
通常のままペーストを行うと、ドキュメントのセンターの位置でペーストされます。

Adobe Photoshop 2016 年 11 月リリース (ver.18)

ユニバーサルサーチ

ツールの場所や使い方がわからなくても、簡単に検索しツールを呼び出せます。

検索結果をもとにチュートリアルを参照・習得できるので、これから Photoshop を始める方にも最適です。



Photoshopのツール、パネル、メニュー、Adobe Stockコンテンツ、ヘルプコンテンツ、チュートリアルを、新しい検索パネルからその場ですぐに検索できます。

Adobe Stock テンプレート

Photoshop でドキュメントを作成する際に、空白のカンバスではなく、Adobe Stock のテンプレートを選択して使用できるようになりました。

テンプレートには、プロジェクトの作成時に使用できる アセットやイラストが含まれています。

テンプレートに加えて、Photoshop に用意されている様々なプリセットの 1 つを選択して、ドキュメントを作成したり、カスタムサイズを作成したりすることもできます。また、独自のプリセットを保存して再利用することもできます。



属性パネルの機能強化

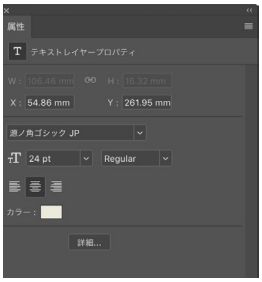
属性パネルから直接、一部のテキスト設定を変更することができます。

レイヤーまたはその他の要素が選択されていなくても、属性パネルにドキュメントプロパティ（サイズや解像度）が表示されるようになりました。



選択したオブジェクトのプロパティが属性パネルの表示され、変更も可能に。

テキストを選択した場合には、テキスト情報としてフォントやサイズなどが表示され、属性パネルからでも変更もできます。



Adobe Photoshop 2016 年 6 月リリース (ver.17)

コンテンツに応じた切り抜き

Photoshop の切り抜きツールに「コンテンツに応じる」オプションが追加されました。

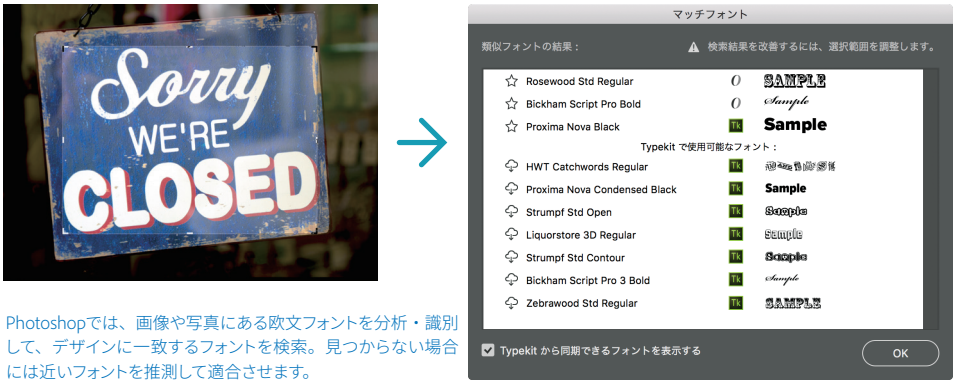
角度補正で画像を回転させた時に生じる四隅の空白部分を、適切なコンテンツで違和感なく埋めることができます。



Photoshopで切り抜きツールを使って画像を回転させたり、元のサイズ以上にカンバスを拡大したりする時、空いたスペースをコンテンツに応じた機能で埋めてくれます。

欧文フォントを検索

新機能「マッチフォント」は、画像の中にあるテキストを選択ボックスで囲むと、そのテキストと類似したフォントをシステム内および Adobe Fonts（旧 Typekit フォント）から検索して表示します。（欧文フォントのみ対応）



Photoshopでは、画像や写真にある欧文フォントを分析・識別して、デザインに一致するフォントを検索。見つからない場合には近いフォントを推測して適合させます。

選択とマスク

専用のワークスペースで、画像の選択範囲とマスクの作成を同時に行えます。クイック選択ツールや境界線調整ブラシ、エッジの検出などが備わっており、髪の毛などの複雑な部分もきめ細かく調整できます。

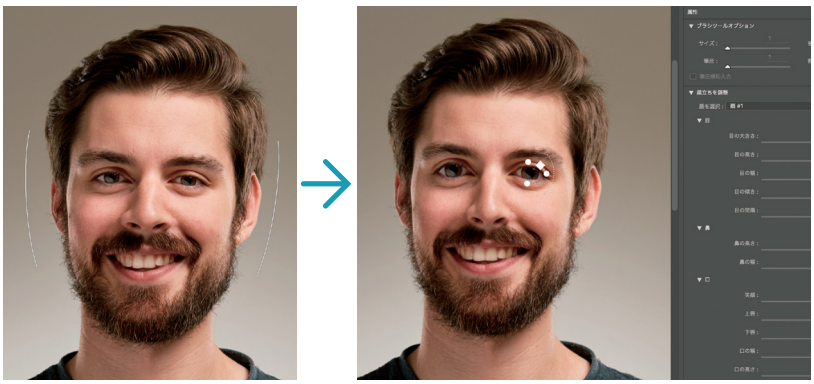


これまで以上に簡単に正確な選択範囲とマスクを作成できます。境界線調整ブラシのようなツールを使用して、前景と背景の要素をきれいに分けられます。

顔立ちを調整

ゆがみフィルターに、「顔立ちを調整」機能が搭載されました。

顔写真から目や鼻、口、顎、頬などが自動で検出され、画像をドラッグまたはスライダーを動かして各部を修正することができます。



ゆがみツールの顔立ちを調整オプションでは、目、鼻、口など顔のパーツを自動的に識別し、簡単に調整できます。ポートレートのレタッチに最適です。

この情報は、2026 年 11 月時点のものです。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

Adobe Photoshop 2015 年 6 月リリース (ver.16)

かすみの除去 (Dehaze) 機能を搭載

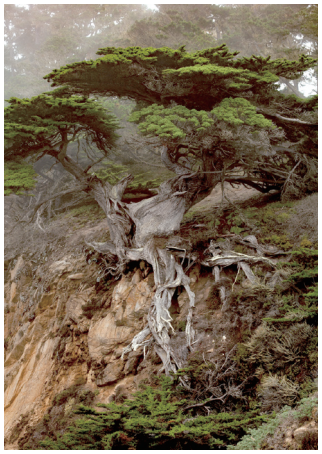
新しい「かすみの除去」機能を利用して、霞のみを除去してクリアにしたり、逆に霞を追加して濃い霧の中のように仕上げることができます。



元画像



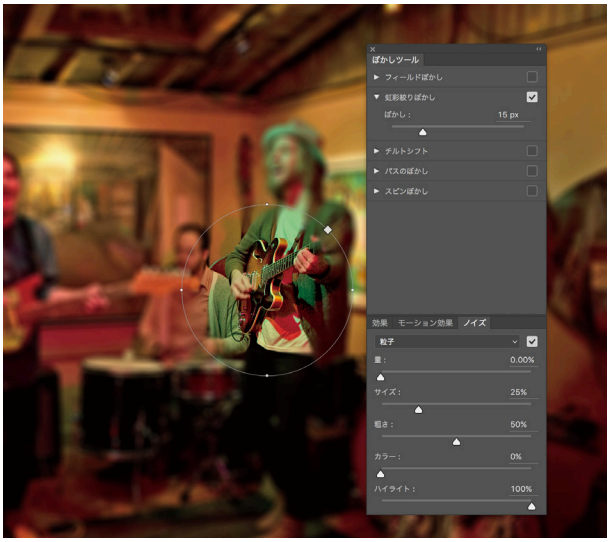
かすみを追加



かすみを除去

ぼかしギャラリー“ノイズ”

ぼかしギャラリーに新しく「ノイズ」を追加。選択範囲の周囲にノイズのかかったぼかし効果を適用することができます。





フィルターメニューから、ぼかしギャラリーを選択すると、ぼかしツールが表示され設定できる。

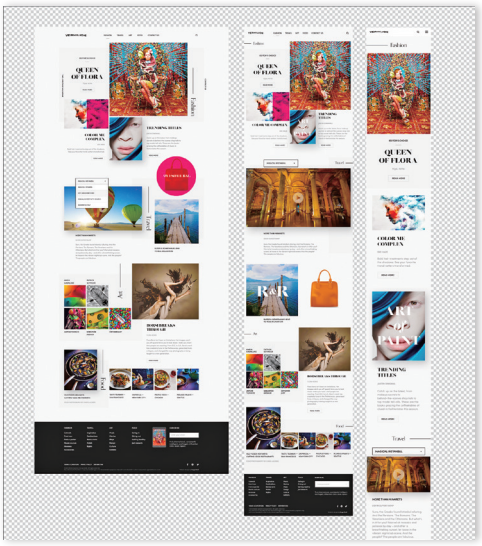
アートボード

Web デザイナーや UX デザイナーの方は、複数デバイス向けに Web サイトやアプリをデザインする機会がますます増えていることでしょう。

アートボードを使えば、スマートフォンやタブレットなどの異なるサイズや複数ページのデザインを 1 つのドキュメント上ですべて確認しながら作業を行えます。



アートボードでドキュメントを作成、アートボードを追加するにはレイヤーパネルのサブメニューより選択する。



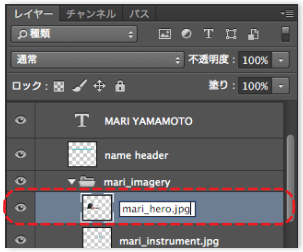
この情報は、2026 年 11 月時点のものです。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

Adobe Photoshop 2014 年 6 月リリース (ver.15)

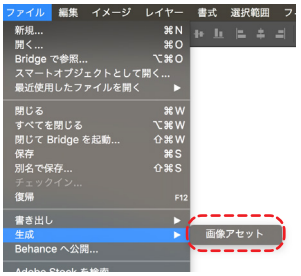
アセットを抽出

画像を 1 つ 1 つ Web 用に保存する手間はもう不要。

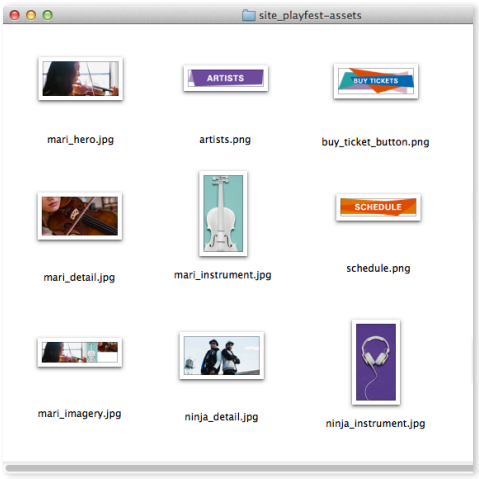
Adobe Generator が、タグ付きのレイヤーおよびレイヤーグループを任意の形式の画像ファイルとして自動的に書き出し、1つのフォルダーに保存します。



書き出したいレイヤー名に拡張子を付ける



画像アセットをクリック



PSDファイルと同じ階層に、assetsフォルダが自動生成。
拡張子を付けたレイヤーが拡張子に合わせて書き出される。

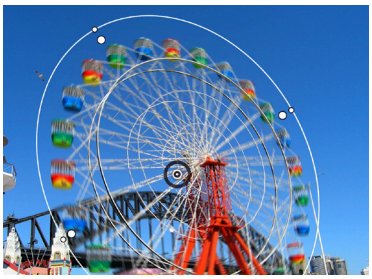
ぼかしギャラリー

ぼかしギャラリーに、画像に動きを与えるような新しい効果が追加されました。

スピンぼかしを使用すれば、円形または楕円形に回転するぼかしを作成できます。

また、パスぼかしを使用して、パスに沿ったぼかしの追加も可能。Mercury Graphics Engine が高速処理を実現します。





スピンぼかしで、観覧車が回転しているように作成。



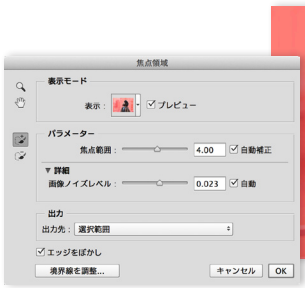


描画したパスに沿ってぼかしが適用される。

焦点領域

Photoshop が、画像内のフォーカスのある領域を自動的に選択してマスクします。

マスクされた領域意外の背景をさらにぼかしたり、色調を変えたりといった補正作業が素早く行えるようになりました。





焦点範囲パラメーターを調整して、選択範囲を拡大または縮小できます。
スライダーを0に移動すると、画像全体が選択されます。
スライダーを最も右側に移動すると、画像内の焦点となる部分のみが選択されます。





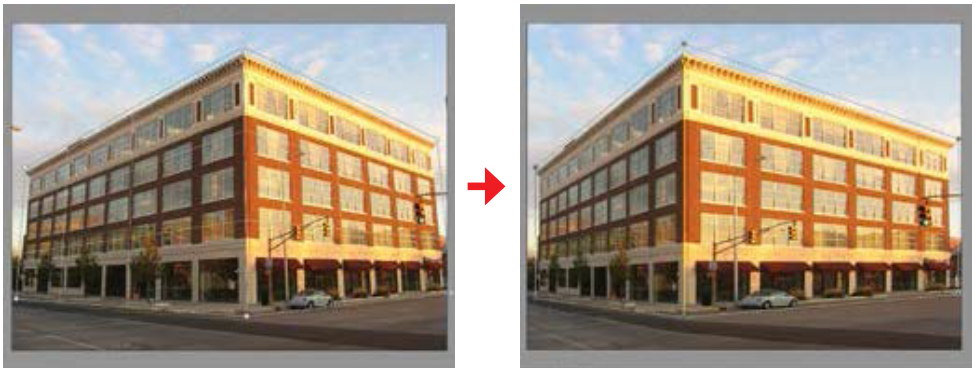
この情報は、2026 年 11 月時点のものです。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

Adobe Photoshop 2013 年 6 月リリース (ver.14)

遠近法ワープ

遠近法ワープを使用して、画像の特定部分の遠近感を調整。オブジェクトを見ている位置にパースを変更できます。

例えば、望遠写真を広角写真に（またはその逆に）変更します。異なる消失点やカメラ位置からなる画像合成もシームレスに行えます。

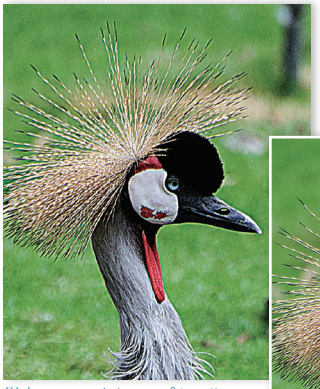


写真の撮影位置の遠近を調整したいという場合、遠近法ワープを使用すると、垂直・水平を保ちながら画像の遠近を変えることができます。

スマートシャープ

最先端のテクノロジーを採用したスマートシャープツールでは、シャープ処理で発生しがちなノイズやハロー効果を最小限に抑えながら、境界線やディテールをくっきりと明瞭に復元することが可能です。

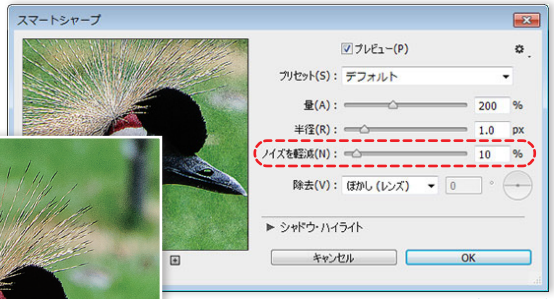
きめ細かい調整を加えれば、より高画質で自然な仕上がりを実現できます。



従来のスマートシャープツール



刷新したスマートシャープツール



スマートシャープの設定にノイズを軽減が追加。エッジに影響を及ぼすに不要なノイズを軽減します。

手ぶれ補正

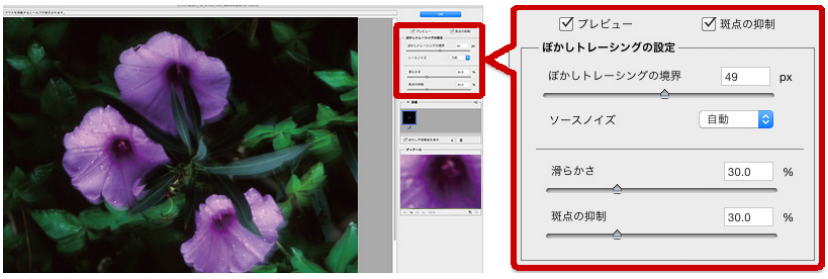
カメラが動いてしまったことによる画像のぶれ、あるいはシャッタースピードの遅れによるピントずれも、Photoshop CC なら簡単に補正できます。

シャープフィルターに新たに「ぶれの軽減」が追加され、Photoshop が自動的にぶれの軌跡を解析し、美しくシャープな画像に修復します。





手ぶれが起きてしまった写真、くっきりとしたシャープな写真に修復。



「ぼかしトレーシングの境界」と「ソースノイズ」で調整し、ノイズが出てしまったら「滑らかさ」を調整します。被写体の輪郭のエッジが効きすぎる場合は、「斑点の抑制」で抑制できます。

この情報は、2026 年 11 月時点のものです。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

Adobe Photoshop 2012 年 5 月リリース（ver.13, CS6）

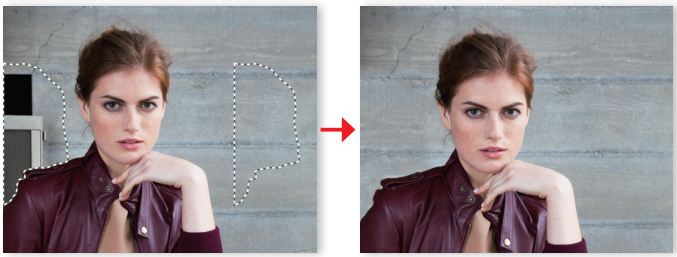
コンテンツに応じた移動、パッチ

Photoshop の“魔法のツール”の代名詞ともなった「コンテンツに応じる」機能が、さらに拡張されました。

選択したオブジェクトを背景と馴染ませながら移動したり、特定の画像領域で塗りつぶして違和感なく除去するといったことが可能です。



「コンテンツに応じた移動ツール」で、選択したオブジェクトを別のエリアに移動すると、周囲の背景とブレンドされて違和感なく配置できます。元の場所は、何もなかったかのように自動的に補完されます。

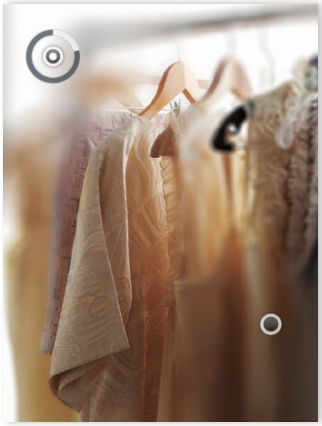


従来からのパッチツールに「コンテンツに応じる」オプションが追加され、選択した範囲を移動先の背景で違和感なく塗りつぶすことができます。通常のパッチツールに比べると、驚くほどの精度向上です。

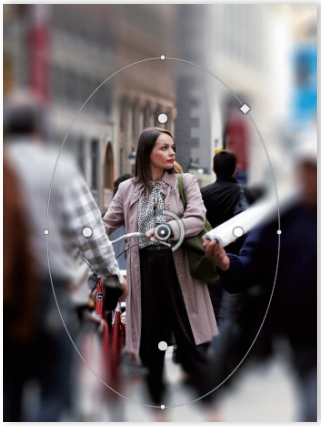
ぼかしギャラリー

新しい「ぼかしギャラリー」から、「フィールドぼかし」「虹彩絞りぼかし」「チルトシフト」の 3 つのぼかし効果を簡単に適用できます。

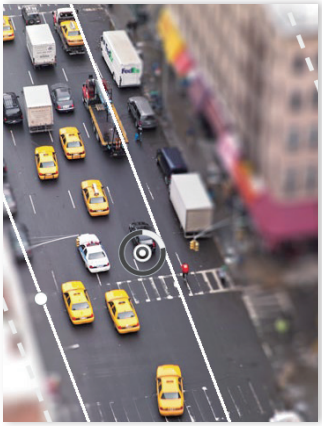
画像に直接ポイントを設定し、直感的なホイール操作でボケ具合や焦点を詳細にコントロールできます。



フィールドぼかし
複数の焦点の間でぼかしの程度を変化させます。



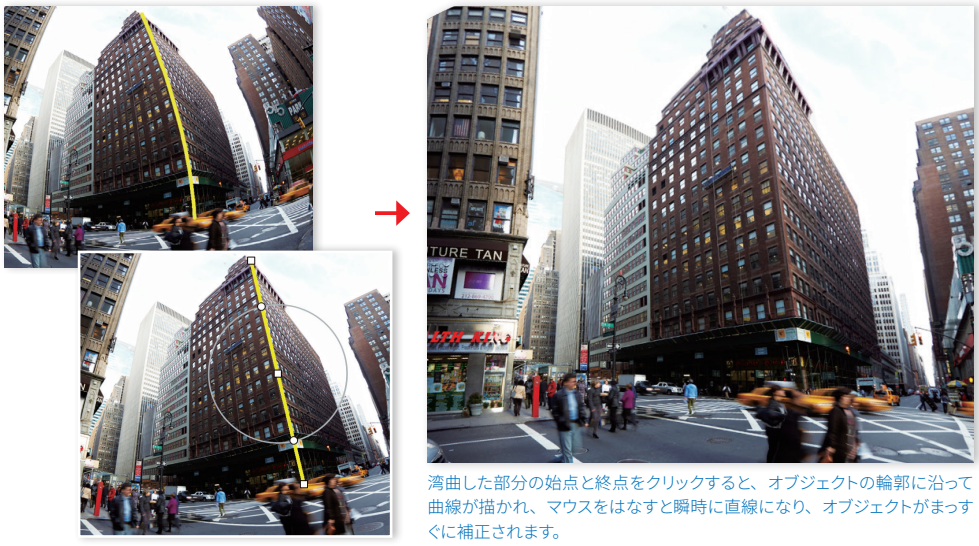
虹彩絞りぼかし
焦点を中心に周囲を均一にぼかします。



チルトシフト
垂直/水平/斜め方向に段階的にぼかしを適用します。

レンズ補正（広角補正フィルター）

パノラマ写真、あるいは魚眼レンズや広角レンズで撮影した写真の湾曲した画像のゆがみを、カンバス上で数回クリックするだけで、垂直／水平方向にまっすぐに補正できます。



湾曲した部分の始点と終点をクリックすると、オブジェクトの輪郭に沿って曲線が描かれ、マウスをはなすと瞬時に直線になり、オブジェクトがまっすぐに補正されます。

この情報は、2026 年 11 月時点のものです。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。
Adobe, the Adobe logo, and Adobe Real-Time Customer Data Platform are either registered trademarks or trademarks of Adobe in the United States and/or other countries.
All other trademarks are the property of their respective owners.
© 2026 Adobe. All rights reserved.